

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	心身障害児・者余暇学習支援事業			事務事業コード	30410100
概要	知的障害のある18歳以上及び特別支援学校等の生徒を対象に、社会教育の機会と場を提供する。				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	41	学習機会の提供と環境づくりの推進	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業		事業開始年度	昭和52年度～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等					
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	○心身障害児・生徒地域活動…市内在住の特別支援学校、盲・ろう学校等の在学者 ○障がい者成人（あすなろ）学級…知的障害者のある18歳以上の市内在住、在勤、在学者				
事業目標	保護者やボランティアを中心として地域との交流を深め、学習することを目的とする。				
事業内容	心身障害児・生徒地域活動は府中地区学校五日制連絡会に委託、あすなろ学級は登録ボランティアを中心に文化・スポーツ・レクリエーション活動等多彩な地域活動への参加の機会と場を提供する。その活動場所については、生涯学習センターを中心に市内外の施設で事業を実施している。				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の種類(※)								
① 心身障害児・生徒地域活動事業の参加者数	402	計画値	350	400	450	500	500	1	2	3	4	5	6	7	8
	人	実績	550	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	新型コロナウイルスの予防を行い、全18回を計画通りに実施することができた。														
② 障がい者成人学級（あすなろ学級）参加者数	698	計画値	500	600	700	800	800	1	2	3	4	5	6	7	8
	人	実績	494	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、1回の活動参加者数を減らす等して開催した。さらに、雨天により一部活動が中止となったため計画を下回った。														

(※) 要因の種類

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	1,358,000	1,289,000	1,312,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	293,000	432,000	410,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,065,000	857,000	902,000	0	0	0
予算現額	1,358,000	1,289,000	0	0	0	0
決算額	337,058	992,283	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	156,000	432,000	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	181,058	560,283	0	0	0	0
執行率	24.8%	77.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.12	1.36				
職員人件費	8,774,984	10,885,674				
月額制会計年度任用職員数	0	0				
月額制会計年度任用職員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	246,964	276,425				
総コスト	9,359,006	12,154,382	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽障がい者成人教室 (あすなる学級) 1回 ※あすなるニュースの発行2回 ▽心身障害児・生徒地域活動 9回実施予定のところ5回実施 延べ参加者数 138人	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から両事業とも、参加者の安心・安全を第一に考慮しながら、会場に集まり一部活動することができた。また、あすなる学級では、あすなるニュースを令和3年10月と令和4年1月に発行するとともに、学級生が自宅で作成した作品をWaiWaiフェスティバルへ出展した。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため一部事業を中止した。



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽障がい者成人教室 (あすなる学級) 15回 ▽心身障害児・生徒地域活動 18回	両事業とも、新型コロナウイルス感染症拡大を防止しながら、活動を再開していく。また、感染状況等によっては、対面しないで行える活動を検討していく。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽障がい者成人教室 (あすなる学級) 13回 ▽心身障害児・生徒地域活動 全18回実施 延べ参加者数550人	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら概ね計画通り実施することができた。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽障がい者成人教室 (あすなる学級) 15回 ▽心身障害児・生徒地域活動 18回	両事業とも、新型コロナウイルス感染症の影響で取り組むことが出来なかった内容を実施し、より幅広い学習機会を提供及び支援していく。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続 B 現状のまま継続 1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)	B	心身障害児・生徒地域活動は、委託団体である府中地区学校五日制連絡会との連携体制を維持していく。 また、あすなる学級は、定員を超える応募があるため、希望者を受け入れられるような体制を検討していくとともに、事業の運営を担う市民スタッフ (ボランティア) の確保・新規加入の促進を行っていく。 障害のある人の大切な学びの場であるため、福祉施策ではなく、生涯学習として長期にわたる継続実施を目指す。
C 見直して継続 1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合 D 休止・廃止等 1 休止 2 廃止 3 完了		

6 構成事業一覧

(単位:円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	10	1538000	心身障害児・者余暇学習支援事業費	1,289,000	992,283	1,312,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,289,000	992,283	1,312,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	生涯学習機会創出事業			事務事業コード	30410200
概要	生涯学習審議会の運営、生涯学習センターの管理運営（講座等の実施含む）、生涯学習活動を担う人材の育成と活用				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課
	施策	41	学習機会の提供と環境づくりの推進	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	主要な事務事業		事業開始年度	平成5年度～
見直しの裁量	市に事業の一部を見直す裁量あり				
根拠法令等	社会教育法、生涯学習振興法、府中市生涯学習審議会条例、府中市生涯学習センター条例				
国土強靱化地域計画	該当あり	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	市民				
事業目標	生涯学習センターにおいては、生涯学習の拠点として安定的な管理運営及び事業運営を行い、充実した講座によって生涯学習の機会創出を図る。生涯学習ボランティア・生涯学習ファシリテーター・生涯学習サポーター等の人材の育成及び活用を進める。				
事業内容	生涯学習審議会では、生涯学習に関連する課題等について審議を行う。 生涯学習センターは、安定的な施設管理で市民の利用を促進し、学習相談や講座企画など学習事業の運営する。民間のノウハウを活かした指定管理者制度により市民サービスの向上と効率化を図る。 市民との協働により、学習成果の発表の場となる生涯学習フェスティバルを開催するとともに、生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座、生涯学習ボランティア入門講座等の実施する。				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の類型(※)								
① 生涯学習センター年間延利用者数	413,106	計画値	220,000	300,000	360,000	420,000	420,000	1	2	3	4	5	6	7	8
	人	実績	309,287	-	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	学習施設及び体育施設は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が力強く進んだ。														
② 生涯学習センター講座受講者数	54,729	計画値	40,000	49,000	57,000	65,000	65,000	1	2	3	4	5	6	7	8
	人	実績	45,718	-	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	講座への市民の参加は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が力強く進んだ。														

(※) 要因の類型

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	351,722,000	453,523,000	368,077,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	931,000	1,107,000	1,122,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	72,000,000	153,000,000	50,000,000	0	0	0
一般財源	278,791,000	299,416,000	316,955,000	0	0	0
予算現額	373,269,000	436,668,400	0	0	0	0
決算額	342,701,204	434,477,411	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	739,000	763,000	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	43,000,000	0	0	0	0
一般財源	341,962,204	390,714,411	0	0	0	0
執行率	91.8%	99.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.92	5.38				
職員人件費	15,042,829	43,047,892				
月額制会計年度任用職員数	0	0				
月額制会計年度任用職員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	423,366	1,093,143				
総コスト	358,167,399	478,618,446	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽指定管理者による教養講座等の実施 (488講座、3,373回開催、延受講者数35,129人) ▽分担による施設管理・修繕等の実施 (市6件、指148件) ▽生涯学習サポーター養成講座、生涯学習ファシリテーター養成講座の開催 (延受講者数 50人) ▽生涯学習ボランティア入門講座・企画講座の実施 (延受講者数184人)		新型コロナウイルス感染拡大防止のため定員や時間の制限を行いながらも、開館をウづけることにより、多くの講座等を開催し、市民の学習機会の創出に努めた。 温水プールにおいては、トップライトガラス修繕、ろ過ポンプ修繕、天井部鉄塗装修繕を行い、253日の休業が発生した。プール休業の影響はあったが、生涯学習センターの利用は、前年度よりも増加している。



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽指定管理者による教養講座等の実施 ▽生涯学習ボランティア企画講座の実施 ▽指定管理者による生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座の開催 ▽第3期の指定管理者候補者選定の実施 ▽指定管理者と市の適切なリスク分担による施設管理・修繕等の実施 ▽劣化診断調査の実施	感染症対策に万全を期しながら、指定管理者やボランティア等と連携を行いながら、講座等の充実に努めていく。 さらに施設運営の充実に図るため、第3期目の指定管理者候補者選定を実施する。 施設の老朽化に伴い、不具合が出てきている設備等が複数報告されているため、全面的な施設の劣化診断調査を行う。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽指定管理者による教養講座等の実施 (547講座、4,255回開催、延受講者数45,718人) ▽生涯学習ボランティア入門講座・企画講座、市民企画講座の実施 (延受講者数568人) ▽生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座の開催 (延受講者数 63人) ▽施設管理・修繕等の実施 (市8件、指87件)		新型コロナウイルス感染症の影響からの回復傾向が鮮明となり、前年度と比較して多くの講座を開催し、学習機会の創出につなげることができた。



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽指定管理者による教養講座等の実施 ▽生涯学習ボランティア企画講座の実施 ▽指定管理者による生涯学習ファシリテーター・サポーター養成講座の開催 ▽指定管理者と市の適切なリスク分担による施設管理・修繕等の実施	指定管理者が変更となるため、サービスの質の低下や利用者の混乱を招くことがないよう、新指定管理者と連携を行いながら事業を進める。HPをはじめ、ICTを活用した事業を展開し、利用者数の更なる増加を図る。 施設の管理については、センターの休館を伴うことなく、利用者の安全安心を第一に緊急性のあるものを優先的に修繕を行う。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続 B 現状のまま継続 1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)	B	新指定管理者のもとで市民にとって魅力的な事業展開ができるよう、市と指定管理者間で情報の共有を図り、効率的・効果的な施設の管理運営に努めていく。 また、今後の生涯学習センターの在り方については、令和6年度に文化・スポーツ配置適正化計画が策定されることから、当該計画を踏まえつつ、方向性を検討していく。
C 見直して継続 1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等 1 休止 2 廃止 3 完了		

6 構成事業一覧

(単位:円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	05	1506500	生涯学習審議会運営費	888,000	695,984	1,205,000
2	01	50	30	05	1509000	負担金 東京都市町村社会教育委員連絡協議会	29,000	28,500	29,000
3	01	50	30	10	1522000	公民館事業運営費	3,202,000	2,313,238	3,039,000
4	01	50	30	25	1591580	利用料金還付金補償料	0	137,162	
5	01	50	30	25	1591590	施設管理運営費 管理運営業務委託料 (債務負担行為解消分)	261,479,000	261,478,650	276,100,000
6	01	50	30	25	1591620	生涯学習センタープール休業補償金	0	487,386	
7	01	50	30	25	1591900	生涯学習センター指定管理者候補者選定委員会運営費	249,000	203,293	
8	01	50	30	25	1592100	学習活動支援費	24,000	4,788	19,000
9	01	50	30	25	1597000	施設管理運営費 諸経費	8,372,000	13,698,410	5,295,000
10	01	50	30	25	1600000	生涯学習センター整備事業費 消防設備改修工事費	89,300,000	83,600,000	
11	01	50	30	25	1605000	生涯学習センター整備事業費 照明等制御設備改修工事費	19,000,000	0	
12	01	50	30	25	1605400	生涯学習センター整備事業費 調査委託料	27,280,000	17,380,000	3,190,000
13	01	50	30	25	1605620	生涯学習センター整備事業費 空気調和設備改修工事費	42,700,000	54,450,000	70,800,000
14	01	50	30	25	1605640	生涯学習センター整備事業費 照明設備改修工事費			7,400,000
15	01	50	30	25	1606000	生涯学習センター整備事業費 緊急整備工事費	1,000,000	0	1,000,000
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							453,523,000	434,477,411	368,077,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	青少年音楽祭運営事業				事務事業コード	30410300
概要	青少年音楽祭の開催					
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課	
	施策	41	学習機会の提供と環境づくりの推進	事業類型	任意事業	
	事業種別	その他の事務事業		事業開始年度	昭和6年度～	
見直しの裁量	市に事業の一部を見直す裁量あり					
根拠法令等	なし					
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称		
対象	参加対象：市内で活動している青少年の音楽団体、参観対象：全市民					
事業目標	青少年音楽団体が一堂に会することにより、演奏技術の向上を目指すとともに音楽を通じた青少年の交流の場となること、また、音楽を通じて情操豊かな青少年の健全育成を目的とする。					
事業内容	市内で活動している青少年音楽団体を対象に参加を募り、合奏の部及び合唱の部に分け、日頃の練習の成果を発表する。また、演奏終了後は音楽界を代表する講師者による、演奏に対する講評をいただき、団体の今後の活動の励みとする。					

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の種類(※)								
① 青少年音楽祭参加団体数	31	計画値	31	31	31	31									
	団体	実績	24	-	-	-	1	2	3	4	5	6	7	8	
要因の具体的内容	新型コロナウイルスの影響により令和元年度と比較して応募団体が少なかったものの、事業は予定どおり実施することができた。														
② 青少年音楽祭観覧者数	3,550	計画値	2,600	3,400	3,600	3,700	3,700								
	人	実績	1,893	-	-	-	1	2	3	4	5	6	7	8	
要因の具体的内容	新型コロナウイルス感染症対策のため出演者を1団体50人程度に制限したこと、一般の入場者について開場の混雑を防止するため市内施設へのチラシの配架等PRを見合わせたため計画を下回った。														

(※) 要因の種類

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	1

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	1,770,000	2,011,000	2,024,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,770,000	2,011,000	2,024,000	0	0	0
予算現額	1,770,000	2,011,000	0	0	0	0
決算額	741	1,561,794	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	741	1,561,794	0	0	0	0
執行率	0.0%	77.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.14	0.94				
職員人件費	1,096,873	7,504,518				
月額制会計年度任用職員数	0	0				
月額制会計年度任用職員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	30,870	190,566				
総コスト	1,128,484	9,256,878	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
青少年音楽祭 8月20日 合奏の部 8月21日 合唱の部 会場 府中の森芸術劇場どりーむホール	音楽祭の長時間化を解消するため、効率的に舞台転換を行うなど、適切な時間での運営を心がける。 青少年が音楽活動への意欲を高め、技術の向上につながる事業として、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、安心・安全な開催方法などを含めて運営を検討する。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
8月20日 合奏の部 出演団体数16団体、観覧者1,193人 8月21日 合唱の部 出演団体数8団体、観覧者700人 会場 府中の森芸術劇場どりーむホール	適切な感染症対策を実施しながらも、事業の趣旨である青少年の交流や技術の向上につながるイベントを実施することができた。 演奏順を市が決めることで効率的な舞台転換を行うことができ、実施時間の短縮に繋がった。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
8月26日 合奏の部 8月27日 合唱の部 会場 府中の森芸術劇場どりーむホール	音楽祭の長時間化を解消するため、出演順を工夫して効率的に舞台転換を行うなど、適切な時間での運営を心がける。 来場者について、出演関係者以外の一般の方も多く参観していただけるよう、広報等を工夫していく。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	新型コロナウイルス感染症拡大前は参加団体数及び来場者数は年々概ね増加傾向にあり、ニーズの高い事業であった。 目標とする参加団体数を維持しつつ、観覧者を増やすための工夫を検討していく。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等	1	
1 休止		
2 廃止		
		3 完了

(単位:円)

6 構成事業一覧

R 4年度	R 5年度	R 4年度				R 5年度			
		当初予算額	決算額	当初予算額					
1	01	50	30	10	1533000	青少年音楽祭運営費	2,011,000	1,561,794	2,024,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							2,011,000	1,561,794	2,024,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	青少年団体育成奨励事業				事務事業コード	30410400
概要	青少年音楽団体育成の奨励					
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 文化生涯学習課	
	施策	41	学習機会の提供と環境づくりの推進	事業類型	任意事業	
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	昭和4年度～	見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり
根拠法令等	なし					
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称		
対象	市内で活動している青少年の音楽団体					
事業目標	団体での活動を通じて、豊かな情操と高い音楽技術を身につけ、青少年の健やかな成長及び音楽文化の向上を目指す。					
事業内容	青少年文化活動事業援助は、市内で恒常的に活動している青少年の音楽団体に対し、市内文化施設での発表会等の会場使用料の一部を援助している。国内で開催される芸術祭・コンクール等に参加出演する市内の青少年音楽団体に対して、対象経費の2分の1の額（上限27万円）を補助する。行事の主催者等が経費の一部を負担するときは、主催者等が負担する額を差し引いた額の2分の1の額（上限13万5千円）を補助する。					

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)							
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の類型(※)							
① 青少年文化活動事業援助団体数	6	計画値	6	6	6	6	1	2	3	4	5	6	7	8
	団体	実績	4	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	新型コロナウイルスの影響により対象となる演奏会を実施できない団体が多かったため													
		計画値					要因の類型(※)							
		実績					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容														

- (※) 要因の類型
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	1

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	696,000	696,000	600,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	696,000	696,000	600,000	0	0	0
予算現額	696,000	696,000	0	0	0	0
決算額	191,919	447,956	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	191,919	447,956	0	0	0	0
執行率	27.6%	64.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.09	0.22				
職員人件費	705,133	1,731,812				
月額制会計年度任用職員数	0	0				
月額制会計年度任用職員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	19,845	43,976				
総コスト	916,897	2,223,744	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
(1) 青少年文化活動事業援助 3団体 (2) 府中市青少年団体の芸術祭・コンクール等参加補助金 0団体	(1) 市内で活動する青少年の文化活動の発表に係る使用料の一部を援助した。 。(2) 市内の青少年文化団体が全国規模の大会へ参加する場合、予算の範囲内で援助するが、該当申請なし。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
(1) 青少年文化活動事業援助 7団体 (2) 府中市青少年団体の芸術祭・コンクール等参加補助金 2団体	(1) 市内で活動する青少年の文化活動の発表に係る使用料の一部を援助する。 。(2) 市内の青少年文化団体が全国規模の大会へ参加する場合、予算の範囲内で援助する。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
(1) 青少年文化活動事業援助 4団体 (2) 府中市青少年団体の芸術祭・コンクール等参加補助金 1団体	(1) 市内で活動する青少年の文化活動の発表に係る使用料の一部を援助した。 。(2) 市内の青少年文化団体が全国規模の大会へ参加する場合に交通費等の一部を援助した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
(1) 青少年文化活動事業援助 4団体 (2) 府中市青少年団体の芸術祭・コンクール等参加補助金 2団体	(1) 市内で活動する青少年の文化活動の発表に係る使用料の一部を援助する。 。(2) 市内の青少年文化団体が全国規模の大会へ参加する場合、予算の範囲内で援助する。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	青少年文化活動事業援助及び府中市青少年団体の芸術祭・コンクール等参加補助金について、引き続き予算の範囲内で援助する。 また、より効果的な事業になるよう、両事業の交付要綱について適宜見直していく。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載)		
2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載)		
3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)	1	
C 見直して継続		
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

(単位:円)

6 構成事業一覧

R 4年度	R 5年度	6 構成事業一覧					予算事業名	R 4年度		R 5年度
		会計	款	項	目	事業コード		当初予算額	決算額	
1	01	50	30	10	1531000	青少年団体育成奨励費	426,000	312,956	330,000	
2	01	50	30	10	1548500	補助金 青少年団体大会参加	270,000	135,000	270,000	
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
26										
27										
28										
29										
30										
合 計							696,000	447,956	600,000	

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	中央図書館運営事業			事務事業コード	30420100
概要	地域の方々の情報拠点として、様々な図書館サービスを展開する。				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業		事業開始年度	昭和36年度～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則、府中市立図書館資料の収集の関する要綱				
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	全市民及び市内在勤・在学者、相互利用者（国分寺・八王子・多摩・日野・町田・調布・稲城・国立・小金井各市民）				
事業目標	より多くの方々に中央図書館を活用していただき、読書や情報収集、学習等、利用者の様々な欲求に応えること。				
事業内容	▽図書館資料の選書・収集、利用者への貸出し・返却、書架整理、蔵書管理（蔵書点検を含む） ▽利用者登録及び更新等 ▽特集展示の企画・運営 ▽市主催の講演会・講座等の企画・運営 ▽PFI事業者との調整 ▽リクエスト・予約の選書及び他自治体・大学等への借用依頼 ▽地域資料のデジタル化				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の類型(※)								
① 中央図書館貸出利用者数	350,000	計画値	230,000	375,000	400,000	420,000	420,000								
	人	実績	201,418	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	目標値は下回ったものの、休館期間中も10月から1月末まで臨時窓口を開設するなど、概ね計画どおり事業を行った。														
② 図書館利用者満足度	89.2	計画値	90	90	90	90	90								
	%	実績	89.2	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	目標値には届かなかったものの、ほぼ近い数値だった。														

(※) 要因の類型

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	1

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	16,548,000	25,196,000	7,602,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	498,000	786,000	996,000	0	0	0
一般財源	16,050,000	24,410,000	6,606,000	0	0	0
予算現額	16,531,000	24,488,000	0	0	0	0
決算額	15,021,024	22,961,009	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	844,241	5,598,858	0	0	0	0
一般財源	14,176,783	17,362,151	0	0	0	0
執行率	90.9%	93.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	7.60	6.15				
職員人件費	59,544,533	49,195,824				
月額制会計年度任用職員数	3.1	3.5				
月額制会計年度任用職員人件費	10,070,945	11,263,406				
(間接経費)						
間接経費	2,270,379	619,112				
総コスト	86,906,881	84,039,351	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽蔵書数 1,028,886冊 ▽図書消毒機の設置 ▽全館共通展示 ▽「科学あそび」等の講演会の実施 ▽東京オリンピック・パラリンピックに関する特集コーナーの実施 ▽図書館開館60周年記念事業の実施	▽新型コロナウイルスの感染状況に応じ随時閉館時間の見直しを行ったほか、アクリル板を設置することにより、間引きしていた座席数をコロナ禍以前の状態に近づけた。 ▽中央図書館3階と4階に図書消毒機を設置した。 ▽講演会・講座については感染症拡大防止対策をしながら5回実施し、内3回の講演会についてはオンライン形式でも実施した。 ▽図書館開館60周年記念事業では、児童やYA世代に向けたイベントや各種講演会・展示などFC東京と協働で実施した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽感染症拡大防止対策を講じたサービスの実施 ▽図書資料の選書や寄贈による収集 ▽全館共通展示の実施 ▽令和5年3月の再開館記念イベントの実施 ▽市立図書館所蔵の地域資料のデジタル化 ▽図書館協議会の実施	▽適切な新型コロナ感染症拡大防止対策を施しつつ、現行の事業は継続し、安全安心かつ魅力ある事業を実施する。 ▽令和5年3月のリニューアルオープンにあわせ、記念イベントを実施する。 ▽貴重な地域資料をデジタル化することにより、次世代への継承や閲覧・研究の利用を促進する。 ▽図書館協議会において、府中市立図書館のサービスに係る点検・評価の下地作りについて審議する。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽令和4年10月から令和5年2月末日まで施設の期初修繕及びシステムの入替のため休館 ▽蔵書数 1,041,380冊 ▽全館共通展示 ▽「科学あそび」等の講演会の実施 ▽中央図書館リニューアルオープン記念イベントの実施 ▽貴重な地域資料のデジタル化に向けた権利移転等の実施 ▽図書館協議会を開催、府中市立図書館のサービスに係る点検・評価の下地作りについて審議、令和5年度に提言を受ける予定。	▽前年度と同様、閲覧席やカウンターへのアクリル板の設置や手指消毒・マスク着用の励行など、新型コロナ感染症拡大防止対策に努めた。 ▽令和4年10月1日から令和5年2月28日まで施設の改修及びシステム入替のため休館したが、令和4年10月から令和5年1月31日まで、中央文化センターに臨時窓口を設置した。また、令和5年2月は保健センターに資料返却用のポストを臨時に設置し、利用者の不便解消に努めた。 ▽ルミエール府中及び中央図書館リニューアルオープン記念イベントを実施した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽感染症拡大防止対策を講じたサービスの実施 ▽図書資料の選書や寄贈による収集 ▽全館共通展示の実施 ▽市立図書館所蔵の地域資料のデジタル化 ▽図書館協議会の実施	▽令和5年3月のリニューアルオープンにあわせて開始した「ふちゅう電子図書館」の周知を行うなど、利用者の増加に努める。 ▽貴重な地域資料をデジタル化することにより、次世代への継承や閲覧・研究の利用を促進する。 ▽図書館協議会において、府中市立図書館のサービスに係る点検・評価の下地作りについて審議する。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	生涯学びたい、読書を楽しみたいという基本的な欲求に対し、多岐の分野にわたる資料及び情報の提供を行うため、資料の選書・収集、利用者への貸出し・返却、書架整理、蔵書管理を行う。また、市と事業者が連携し、より魅力ある企画の開催や、ふちゅう電子図書館などの新たなサービスの周知などを行い、来館者や利用者の増加を目指す。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		

6 構成事業一覧

(単位:円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	15	1558960	図書館協議会運営費	250,000	243,067	367,000
2	01	50	30	15	1560000	中央図書館運営費	20,924,000	18,798,462	6,200,000
3	01	50	30	15	1561500	図書資料貸出推進事業費	3,987,000	3,884,980	
4	01	50	30	15	1572000	負担金 日本図書館協会	23,000	23,000	23,000
5	01	50	30	15	1573000	負担金 東京都市町村立図書館長協議会	12,000	11,500	12,000
6	01	50	30	15	1577100	中央図書館整備事業費 緊急整備工事費			1,000,000
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							25,196,000	22,961,009	7,602,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	中央図書館複合施設整備等事業				事務事業コード	30420200
概要	中央図書館の複合施設整備等事業費の債務負担行為解消分					
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館	
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業	
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成19年度～	見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則					
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称		
対象	府中市立中央図書館					
事業目標	民間活力を活用し、効率的な施設運営を行うことにより、利用者に気持ちよく図書館を数多く利用していただき、読書の楽しさや学習意欲を満足・向上させる。					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館の貸出し・返却・本返し・書架整理 図書館所蔵資料の予約処理及び他自治体等借用本の装備等 資料の購入・受入処理 講座・特集展示等事業の企画・運営 学習室等の利用管理 施設管理 					

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の類型(※)								
① 講座・イベント等開催回数	85	計画値	85	95	105	110	110	1	2	3	4	5	6	7	8
	回	実績	50	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	10月から2月末まで休館したため、回数は目標を下回ったが、開館中は予定どおり事業を実施した。														
		計画値						要因の類型(※)							
		実績						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容															

- (※) 要因の類型
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	666,594,000	967,456,000	662,243,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	201,500,000	0	0	0	0
その他	9,000,000	0	0	0	0	0
一般財源	657,594,000	765,956,000	662,243,000	0	0	0
予算現額	666,539,000	968,164,000	0	0	0	0
決算額	666,533,224	968,161,611	0	0	0	0
国庫支出金	0	11,582,000	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	177,300,000	0	0	0	0
その他	8,000,000	0	0	0	0	0
一般財源	658,533,224	779,279,611	0	0	0	0
執行率	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.50	6.15				
職員人件費	27,421,825	49,195,824				
月額制会計年度任用職員数	1	2.5				
月額制会計年度任用職員人件費	3,248,692	8,045,290				
(間接経費)						
間接経費	0	554,955				
総コスト	697,203,741	1,025,957,680	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽バリアフリー映画会 1回、15人 ▽図書館ガイドツアー 10回、18人 ▽図書館員体験ツアー 2回、13人 ▽特集展示 図書 39回/視聴覚 21回 ▽PFI事業者選定委員会 1回	▽各種イベントについては、募集人員を減らしたり、換気を徹底するなど、感染症拡大防止対策を施しながら実施した。 ▽7月に複合施設PFI選定委員会を実施し事業者の選定を行い、1月に事業契約の締結を行った。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽感染症拡大防止対策を講じたイベントの実施 ▽各種講習会2回/バリアフリー映画会 1回 ▽図書館ガイドツアー 15回/検索機案内 40回 ▽図書館員体験ツアー 5回/図書館探検隊 3回 ▽特集展示 図書 45回/視聴覚 15回 ▽府中市立図書館の次期運営に向けて、各業務の調整等協議を行う。	▽国や都の動向に注視し、適切な新型コロナ感染症拡大防止対策を施しながら、各種イベントを実施する。 ▽次期事業者と各業務の調整を行うなど新たな運営体制に向けた準備を進め、令和4年10月からの次期PFI事業を予定通り開始する。 ▽中央図書館の長期休館期間において、中央図書館臨時窓口を中央文化センターに開設しサービスの一部を継続するなど、利用者の不便の軽減を図る。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽バリアフリー映画会 1回、24人 ▽図書館ガイドツアー 4回、7人 ▽図書館員体験ツアー 4回、29人 ▽特集展示 図書 29回/視聴覚 12回	▽中央図書館は令和4年10月から令和5年2月まで休館だったこともあり、図書館ガイドツアーや特集展示の実施回数、参加人数は減少したが、図書館体験ツアーは夏休みのイベントのため実施回数、参加人数ともに増加した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽各種講習会2回/バリアフリー映画会 1回 ▽図書館ガイドツアー 15回/検索機案内 40回 ▽図書館員体験ツアー 5回/図書館探検隊 3回 ▽特集展示 図書 45回/視聴覚 15回 ▽同じ施設に所在する市民会館やレストランとのコラボイベントの実施	▽国や都の動向に注視し、適切な新型コロナ感染症拡大防止対策を施しながら、各種イベントを実施する。 ▽複合施設の特徴を活かした事業者間のコラボ企画などを実施し、来館者の増加を図る。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	令和5年3月のリニューアルオープンに伴い開始した新たなサービスを周知しながら現行のサービスを継続するとともに、施設の特徴を活かして市民会館、レストランと連携するなど、さらに魅力ある企画を行い、来館者・利用者の増加につなげていく。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止 2 廃止 3 完了		

6 構成事業一覧

(単位:円)

1	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	50	30	15	1575000	中央図書館複合施設整備等事業費 管理運営委託料 (債務負担行為解消分)	202,266,000	202,265,202	
2	01	50	30	15	1575500	中央図書館複合施設維持管理運営等事業費 管理運営業務委託料 (債務負担行為解消分)	272,160,000	272,159,339	611,964,000
3	01	50	30	15	1576000	中央図書館複合施設整備等事業費 施設購入費 (債務負担行為解消分)	127,305,000	127,304,639	
4	01	50	30	15	1576600	中央図書館複合施設維持管理運営等事業費 施設整備費 (債務負担行為解消分)	365,725,000	366,432,431	50,279,000
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							967,456,000	968,161,611	662,243,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	図書館維持管理事業				事務事業コード	30420300
概要	図書館施設の清掃及び設備保守等を実施する。					
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館	
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業	
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	昭和36年度～	見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則					
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称		
対象	図書館					
事業目標	施設の清掃、施設設備の定期的な検査や保守点検、機械警備等を行い、施設の適切な維持管理・利用者の安全確保に努める。					
事業内容	▽中央図書館の光熱水費 ▽生涯学習センター図書館の光熱水費・清掃費・管理費等					

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)							
		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		要因の類型(※)							
	計画値						1	2	3	4	5	6	7	8
	実績						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容														
	計画値						要因の類型(※)							
	実績						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容														

- (※)要因の類型
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
(事業費)						
当初予算額	36,697,000	32,241,000	42,028,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	115,000	80,000	169,000	0	0	0
一般財源	36,582,000	32,161,000	41,859,000	0	0	0
予算現額	36,722,000	42,856,000	0	0	0	0
決算額	31,620,476	40,803,903	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	132,831	582,961	0	0	0	0
一般財源	31,487,645	40,220,942	0	0	0	0
執行率	86.1%	95.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.30	1.70				
職員人件費	10,185,249	13,598,846				
月額制会計年度任用職員数	0	0				
月額制会計年度任用職員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	0	109,066				
総コスト	41,805,725	54,511,815	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽感染症拡大防止対策のため、館内の清掃、消毒及び換気の実施 ▽中央図書館の節電及び事業者への協力依頼・利用者への周知を実施 ▽生涯学習センター図書館の節電及び利用者への周知を実施	▽館内の清掃、換気の徹底及び消毒液の設置など事業者と連携しながら感染症拡大防止対策に努めた。 ▽府中市職員エコ・アクションプランに基づき、利用者の理解を得ながら、中央図書館及び生涯学習センター図書館での節電に取り組んだ。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽国や都の動向に注視しながら、適切な館内の清掃、消毒及び換気の実施など感染症拡大防止対策に努める。 ▽中央図書館の節電及び事業者への協力依頼・利用者への周知 ▽生涯学習センター図書館の節電及び利用者への協力の周知	▽感染症拡大を防止するため、事業者と連携しながら館内の維持管理を実施する。 ▽府中市職員エコ・アクションプランに基づき、利用者の理解を得ながら、中央図書館及び生涯学習センター図書館での節電に取り組んでいく。 ▽契約の見直しについて、実施可能なものがあれば今後も事業者と検討していく。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽館内の清掃、換気の徹底及び消毒液の設置など事業者と連携しながら感染症拡大防止対策に努めた。 ▽府中市職員エコ・アクションプランに基づき、利用者の理解を得ながら、中央図書館及び生涯学習センター図書館での節電に取り組んだ。	▽館内の清掃、換気の徹底及び消毒液の設置など事業者と連携しながら感染症拡大防止対策に努めた。 ▽府中市職員エコ・アクションプランに基づき、利用者の理解を得るとともに、光熱費の高騰もあり、職員には節電に対する意識を徹底させ中央図書館及び生涯学習センター図書館での節電に取り組んだ。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽国や都の動向に注視しながら、適切な館内の清掃、消毒及び換気の実施など感染症拡大防止対策に努める。 ▽中央図書館の節電及び事業者への協力依頼・利用者への周知 ▽生涯学習センター図書館の節電及び利用者への協力の周知	▽感染症拡大を防止するため、事業者と連携しながら館内の維持管理を実施する。 ▽府中市職員エコ・アクションプランに基づき、利用者の理解を得ながら、中央図書館及び生涯学習センター図書館での節電に取り組んでいく。 ▽契約の見直しについて、実施可能なものがあれば今後も事業者と検討していく。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	第5次府中市エコアクションプランに基づき、節電に取り組んでいく。また、PFI事業者にも取組への協力を依頼する。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載)		
2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載)		
3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)	1	
C 見直して継続		
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

6 構成事業一覧

(単位:円)

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	15	1568000	施設管理費 管理委託料	1,528,000	1,527,234	1,528,000
2	01	50	30	15	1569000	施設管理費 光熱水費及び燃料費	28,405,000	37,437,992	37,949,000
3	01	50	30	15	1571000	施設管理費 諸経費	2,308,000	1,838,677	2,551,000
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							32,241,000	40,803,903	42,028,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	地区図書館運営事業			事務事業コード	30420400
概要	地域の方々の身近な情報拠点として、地域に根ざした図書館サービスを展開する。				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業		事業開始年度	昭和46年度～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則、府中市立図書館資料の収集に関する要綱				
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	全市民及び市内在勤・在学者、相互利用者（国分寺・八王子・多摩・日野・町田・調布・稲城・国立・小金井各市民）				
事業目標	より多くの方々に地区図書館を活用していただき、読書や情報収集、学習等、利用者の様々な欲求に応えること。				
事業内容	各文化センター（中央文化センターを除く）、ふるさと府中歴史館及び生涯学習センター内に地区図書館（12館）を設置しており、その運営を行う。 ▽図書館資料の選書・収集、利用者への貸出し・返却、書架整理、蔵書管理（蔵書点検を含む） ▽利用者登録及び更新等 ▽特集展示の企画・運営 ▽リクエスト・予約の選書 ▽おはなし会等の運営				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移					計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)							
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	要因の類型(※)									
① 地区図書館貸出利用者数	310,000	計画値	290,000	330,000	345,000	360,000	360,000								
	人	実績	308,171	-	-	-	-	1	2	3	4	5	6	7	8
要因の具体的内容	2月に1か月間休館をしたが、中央図書館休館期間中の利用者の増加もあり、目標値を上回った。														
② 図書館利用者満足度	89.2	計画値	90	90	90	90	90								
	%	実績	89.2	-	-	-	-	1	2	3	4	5	6	7	8
要因の具体的内容	目標値には届かなかったものの、ほぼ近い数値だった。														

- (※) 要因の類型
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	1

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	82,022,000	86,229,000	85,424,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	56,000	3,149,000	145,000	0	0	0
一般財源	81,966,000	83,080,000	85,279,000	0	0	0
予算現額	81,963,000	85,697,000	0	0	0	0
決算額	79,088,439	80,851,580	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	143,610	3,159,790	0	0	0	0
一般財源	78,944,829	77,691,790	0	0	0	0
執行率	96.5%	94.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.60	1.20				
職員人件費	12,535,691	9,599,185				
月額制会計年度任用職員数	11	11				
月額制会計年度任用職員人件費	35,735,612	35,399,276				
(間接経費)						
間接経費	8,359	782,716				
総コスト	127,368,101	126,632,757	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽地区図書館全館の蔵書数 520,437冊 ▽全館共通展示 34回 ▽地区館単独事業 9回 参加者 554人 ▽宮町図書館の新庁舎移転について、関係課との会議を実施した。	▽館内のパーテーションの設置や換気の徹底など感染症拡大防止対策を施しながら、座席数を元の状態に近づけた。 ▽感染症拡大防止対策を講じながら、定例のおはなし会、各館でのイベントを実施した。 ▽宮町図書館の新庁舎への移転について、引き続き関係課と検討を行った。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽感染症拡大防止対策を講じたサービスの実施 ▽図書消毒機の設置 ▽図書資料等の選書や寄贈による収集 ▽巡回共通展示の実施や地区館単独事業の実施 ▽宮町図書館の新庁舎への移転についての検討 ▽白糸台図書館のレイアウト変更の実施	▽マスク着用・手指消毒の徹底の励行やパーテーションの設置、座席の間引きなど感染症拡大防止対策を講じる。 ▽宮町図書館の新庁舎への移転について、引き続き関係課と検討する。 ▽システム改修に伴う2月の休館、3月の再会館に向けて計画的かつ円滑な図書館運営を行う。 ▽休館期間に白糸台図書館に子どもスペースを作るなど有効活用を図る。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽令和5年2月1日から28日までシステム入替のため休館 ▽地区図書館全館の蔵書数 524,028冊 ▽全館共通展示 40回 ▽地区館単独事業 13回 参加者 1,366人 ▽宮町図書館の新庁舎移転について、関係課との会議を実施した。 ▽図書消毒機の設置	▽令和4年10月から令和5年1月まで、中央図書館の休館に伴い、中央図書館のみ所蔵の雑誌や新聞を各地区図書館に振り分けて閲覧可能とした。 ▽各地区図書館に1台ずつ図書消毒機を設置。また、マスク着用・手指消毒の徹底の励行や館内のパーテーションの設置、座席の間引きなど感染症拡大防止対策を講じた。 ▽宮町図書館の新庁舎への移転について、引き続き関係課と検討を行った。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽感染症拡大防止対策を講じたサービスの実施 ▽図書資料等の選書や寄贈による収集 ▽巡回共通展示の実施や地区館単独事業の実施 ▽宮町図書館の新庁舎への移転についての検討 ▽各地区図書館の所在施設のイベント等と連携したイベントの実施。	▽引き続き手指消毒の徹底を周知しながら、おはなし会や季節に応じたイベントを実施する。 ▽宮町図書館の新庁舎への移転について、引き続き関係課と検討する。 ▽所在施設のイベント等と連携したイベントを実施する。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	地域の情報拠点として、地域に根ざした地区図書館を目指し、所在施設と連携するなど、より魅力ある企画を行うことにより、来館者・利用者の増加を図る。また、各地区館が所在する施設の老朽化が進んでいることから、今後の対応について検討する。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載)		
2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載)		
3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)	1	
C 見直して継続		
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

(単位:円)

6 構成事業一覧

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	15	1561000	地区図書館運営費	86,229,000	80,851,580	85,424,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							86,229,000	80,851,580	85,424,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	レファレンスサービス事業		事務事業コード	30420500	
概要	何らかの情報あるいは資料を求めている図書館利用者に対して、仲介的立場から、必要な情報あるいは資料を提供ないし提示することにより支援する。				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業		事業開始年度	昭和36年度～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則				
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	全市民及び全利用者				
事業目標	利用者の調べたい、学びたいという知的欲求・学習意欲に適切かつ迅速に対応すること。				
事業内容	▽カウンター、メール、電話等でのレファレンス（調査相談）の対応 ▽相談内容の記録及び全職員の共有化 ▽レファレンスに役立つ講座等の実施 ▽資料の充実に向け選書等 ▽行政向け新刊案内の作成・配付及び行政向けレファレンスサービスの実施				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		要因の類型(※)								
① 市の受けるレファレンス件数	4,843	計画値	3,000	5,244	5,344	5,444	5,444	1	2	3	4	5	6	7	8
	件	実績	3,216	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	10月から2月末まで休館したが、開館期間は通常どおり実施し、目標値を上回った。														
		計画値						要因の類型(※)							
		実績						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容															

- (※) 要因の類型
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
(事業費)						
当初予算額	1,112,000	1,312,000	1,278,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,112,000	1,312,000	1,278,000	0	0	0
予算現額	1,112,000	1,312,000	0	0	0	0
決算額	1,107,502	1,310,419	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,107,502	1,310,419	0	0	0	0
執行率	99.6%	99.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	2.80	2.60				
職員人件費	21,937,460	20,798,235				
月額制会計年度任用職員数	0.7	0.5				
月額制会計年度任用職員人件費	2,274,084	1,609,058				
(間接経費)						
間接経費	0	198,885				
総コスト	25,319,046	23,916,597	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽レファレンス講座の実施 1回、21人 ▽データベースの利用 448人 ▽職場内でのレファレンス研修の実施・都立図書館研修への参加 ▽国立国会図書館デジタル資料送信サービス 閲覧利用者 175人 ▽OPAC 検索案内 36回、45人	▽レファレンス講座は、感染症拡大対策をしながら実施した。 ▽職場内のレファレンス研修を実施し、実践的な知識の習得に努めた。	


 A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽データベース利用の促進 ▽職場内でのレファレンス研修の実施・都立図書館研修への参加による職員の知識習得 ▽国立国会図書館デジタル化資料送信サービスのPR及び利用促進 ▽OPAC (利用者用検索端末) の検索案内	▽データベースの利用を促進するためのPRを行う。 ▽職場内のレファレンス研修を実施し、引き続き実践的な知識の習得に努める。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽データベースの利用 416人 ▽職場内でのレファレンス研修の実施・都立図書館研修への参加 ▽国立国会図書館デジタル資料送信サービス 閲覧利用者 178人 ▽OPACの検索案内 34回 32人 ▽レファレンス講座 10月から2月までの中央図書館長期休館及び3月のリニューアルオープンイベント開催のため今年度の実施はなし	▽データベース、国立国会図書館デジタル資料送信サービス、OPAC検索案内は5か月間の休館があったものの、多くの方にご利用いただいた。 ▽職場内のレファレンス研修を実施し、引き続き実践的な知識の習得に努めた。 ▽レファレンス講座は、長期休館のため実施せず。	


 A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽レファレンス講座の実施 ▽データベース利用の促進 ▽職場内でのレファレンス研修の実施・都立図書館研修への参加による職員の知識習得 ▽国立国会図書館デジタル化資料送信サービスのPR及び利用促進 ▽OPAC (利用者用検索端末) の検索案内	▽データベースの利用を促進するためのPRを行う。 ▽職場内のレファレンス研修を実施し、引き続き実践的な知識の習得に努める。 ▽参加者の知的欲求等を高め、図書館の利用にもつながるレファレンス講座を実施する。

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	利用者の調べたい、学びたいという知的欲求・学習意欲に十分な対応ができるように、職員向け研修の内容の充実や、都立図書館等が開催するレファレンス研修への職員の派遣等により、職場全体のレベルアップを図る。また、市で所蔵する地域資料のデジタル化を行うなど、利用者自身で調べられる環境を整備する。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		

6 構成事業一覧

(単位:円)

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	15	1562000	レファレンスサービス事業費	1,312,000	1,310,419	1,278,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,312,000	1,310,419	1,278,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	児童・青少年サービス事業			事務事業コード	30420600
概要	子どもが本を楽しみ、読書する力を身に付けて、人生をより豊かにしていただくために様々なサービスを実施する。				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業		事業開始年度	昭和37年度～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則、子ども読書活動の推進に関する法律				
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	全市民及び全利用者				
事業目標	赤ちゃんから中・高校生世代までの子どもたちが、生活のさまざまな場で本を楽しむことができるようにする。				
事業内容	▽児童・青少年向けの資料の選書・充実 ▽読書の楽しさを伝えるため、児童を対象にしたイベント「おはなし会」や青少年を対象とした「ブックトーク」などの実施 ▽「それいけ！としょかんたんげんたい」、「BOOKS FOR YOU」、「とっておきの本 1さつ 小学生」、「読み聞かせに向く絵本のリスト」等、児童・青少年への推薦図書リストの作成 ▽読み聞かせのやり方を紹介した「読み聞かせハンドブック」の作成・配布 ▽学級貸出制度等、学校や関係部署等との連携				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度		要因の種類(※)								
①おはなし会参加人数	3,100	計画値	2,900	3,700	4,300	4,800	4,800	1	2	3	4	5	6	7	8
	人	実績	2,155	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	施設の期初修繕・改修工事に伴う中央図書館の休館中も近隣の公共施設など会場を変えて予定どおり実施した。														
②学級貸出冊数	14,000	計画値	13,000	15,000	15,500	16,000	16,000	要因の種類(※)							
	冊	実績	10,628	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	2月はシステムの更新に伴い学級貸出を休止したが、他の月は通常どおり実施した。1クラス当たりの貸出冊数は、小学校では増加したが、中学校では減少した。														

(※)要因の種類

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度
(事業費)						
当初予算額	610,000	593,000	703,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	610,000	593,000	703,000	0	0	0
予算現額	610,000	593,000	0	0	0	0
決算額	518,073	512,614	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	518,073	512,614	0	0	0	0
執行率	84.9%	86.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.90	2.10				
職員人件費	14,886,133	16,798,574				
月額制会計年度任用職員数	2.5	1				
月額制会計年度任用職員人件費	8,121,730	3,218,116				
(間接経費)						
間接経費	0	198,885				
総コスト	23,525,936	20,728,189	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽ブックトークよむよむ探検隊 4回 31人 ▽読み聞かせ講習会の実施 5回 45人 ▽おはなしボランティア養成講座の実施 8回 289人 ▽各年齢向けお薦め本リストの作成・案内 ▽YAコーナー、YALームPRチラシ等の作成、配付	▽ブックトークは開催時期を変更したが、予定どおり4回実施した。また、ちいさい子のためのおはなし会を休止していたが10月より再開した ▽学校でのブックトークは休止したが、学校への訪問授業や図書館見学を行った。 ▽読み聞かせ講習会及びボランティア養成講座を実施した。 ▽YAコーナーのPR用ポスターを市内中学校の生徒と協働で作成し、館内に掲示した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽ブックトークよむよむ探検隊 ▽学校職場体験及びボランティア/学校でのブックトーク等の実施 ▽読み聞かせ講習会や図書館おはなしボランティアステップアップ講座の実施 ▽各年齢向けお薦め本リストの作成・案内 ▽YAコーナー、YALームPRチラシ等の作成、配付 ▽令和5年3月の再開館記念イベントの実施	▽校長会での案内周知と魅力あるテーマの設定 ▽学校職場体験及びボランティアの積極的な受入れ ▽学校でのブックトーク等のPR及び実施 ▽図書館おはなしボランティアステップアップ講座等によるボランティアのスキルアップ ▽お薦め本リストやYAコーナーのPR ▽令和5年3月のリニューアルオープンにあわせた記念イベントの実施

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽ブックトークよむよむ探検隊 2回 11人 ▽学校職場体験及びボランティア/学校でのブックトーク等の実施 0回 ▽読み聞かせ講習会の実施 6回 80人 ▽図書館おはなしボランティアステップアップ講座の実施 8回 320人 ▽各年齢向けお薦め本リストの作成・案内 ▽YAコーナー、YALームPRチラシ等の作成、配付 ▽令和5年3月の再開館記念イベントの実施 ①工作おはなし会 56人 (内子ども28人) ②親子DEおはなし会 44人 (内子ども22人) ③図書館なぞときイベント (令和5年4月3日まで実施) 高学年向け 260人 中高校生向け 102人	▽中央図書館は令和4年10月から令和5年2月まで休館だったが、おはなし会や講座等の会場を別に設けるなど、利用者への影響がより少なくなるよう実施した。 ▽令和5年3月のリニューアルオープンに伴い、記念イベントを実施し、多くの方に参加いただいた。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽ブックトークよむよむ探検隊 ▽学校職場体験及びボランティア/学校でのブックトーク等の実施 ▽読み聞かせ講習会の実施 ▽図書館おはなしボランティアステップアップ講座の実施 ▽各年齢向けお薦め本リストの作成・案内 ▽YAコーナー、YALームPRチラシ等の作成、配付	▽校長会での案内周知と魅力あるテーマの設定 ▽学校職場体験及びボランティアの積極的な受入れ ▽学校でのブックトーク等のPR及び実施 ▽図書館おはなしボランティアステップアップ講座等によるボランティアのスキルアップ ▽お薦め本リストやYAコーナーのPR ▽第5期府中市子ども読書活動推進計画の策定

R 6年度における事業の位置付け		事業の位置付けの詳細と今後の方向性
A 重点化・拡大して継続	B	子どもの読書環境を整備することにより、子どもが本を楽しみ、読書する力を身に付け、人生をより豊かに生きるため、府中市子ども読書活動推進計画に基づいて事業を進め、子どもの読書活動の推進を図る。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止 2 廃止 3 完了		

6 構成事業一覧

(単位:円)

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	15	1559100	子ども読書活動推進計画策定費			116,000
2	01	50	30	15	1563000	児童・青少年サービス事業費	593,000	512,614	587,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							593,000	512,614	703,000

事務事業評価シート

記載年月	令和5年9月
対象年度	令和4年度

1 事務事業の概要

事務事業名	ハンディキャップサービス事業			事務事業コード	30420700
概要	活字による読書や、印刷されたものをそのまま利用することが困難な方、図書館への来館が困難な方などへ様々なサービスを実施する。				
総合計画	基本施策	2	生涯にわたる学習活動の推進	主担当部課名	文化スポーツ部 図書館
	施策	42	図書館サービスの充実	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業		事業開始年度	～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等	図書館法、府中市立図書館条例、府中市立図書館条例施行規則、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律				
国土強靱化地域計画	該当なし	交付金・補助金等の申請	該当なし	交付金・補助金等の名称	
対象	通常の図書館利用が困難な利用者				
事業目標	健常者だけではなく、高齢者や障害のある方を含め、すべての利用者が、図書館サービスを享受できるようにすること。				
事業内容	▽点字や大活字、デジタイズ図書などの録音図書等図書館資料の選定・購入・提供 ▽サービスや資料のPR ▽ボランティアとの協働及びステップアップへの補助 ▽デジタイズ図書や布の絵本等の作成 ▽来館困難者への資料の宅配				

2 実施計画・実績(指標)

指標名	基準値 (単位)	事業推移				計画値	実績の評価(計画・実績の差異の有無と差異の要因分析)								
		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		要因の類型(※)								
① 宅配回数	200	計画値	180	215	230	245	245	1	2	3	4	5	6	7	8
	回	実績	268	-	-	-	-	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	2月はシステム更新・改修に伴い休止したが、多くの方の利用があり、目標を上回った。														
② 所蔵資料数	5,900	計画値	5,900	6,000	6,100	6,200	6,200	要因の類型(※)							
	数	実績	5,908	-	-	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
要因の具体的内容	予定どおり資料の購入を進めた。														

- (※) 要因の類型
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1 概ね計画通り実施した | 5 社会経済状況により必要性が低下し計画を下回った |
| 2 市民等のニーズが増加し計画を上回った | 6 行政サービス供給を阻害する要因があり予定通り実施できなかった |
| 3 社会経済状況により必要性が高まり計画を上回った | 7 行政サービス供給体制に課題があり予定通り実施できなかった |
| 4 市民等のニーズが減少し計画を下回った | 8 その他 |

3 成果(参考情報) 現状分析

	1	2	3	
① 事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	1
② 受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	1
③ 多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位:円、人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
(事業費)						
当初予算額	1,080,000	1,234,000	1,158,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,080,000	1,234,000	1,158,000	0	0	0
予算現額	1,080,000	1,234,000	0	0	0	0
決算額	965,460	1,070,052	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	965,460	1,070,052	0	0	0	0
執行率	89.4%	86.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.30	2.10				
職員人件費	25,854,863	16,798,574				
月額制会計年度任用職員数	0.7	0.5				
月額制会計年度任用職員人件費	2,274,084	1,609,058				
(間接経費)						
間接経費	0	166,807				
総コスト	29,094,408	19,644,491	0	0	0	0

5 PDCAサイクルの確認と評価・改善の方針

R 3年度実績 (Do)	R 3年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽対面朗読 98回 ▽録音図書作成 7タイトル ▽宅配 18人、211回・郵送 14人、12館、貸出資料数 1,178点 ▽音訳・対面朗読ボランティア養成講座 延べ参加者 85人 ▽特集展示の実施	▽対面朗読は、定期的な換気など感染拡大防止対策をしながら実施した。 ▽「きずな」での絵本展示は新型コロナウイルスのため中止したが、昨年度と同様、中央図書館において継続して特集展示を実施した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 3年度評価に基づく見直し (Action)

R 4年度の具体的な取組 (Plan)	R 4年度の方向性 (Plan)
▽対面朗読の実施 ▽録音図書・布絵本の作成 ▽宅配貸出・郵送貸出の実施 ▽音訳・対面朗読ボランティアの養成 ▽「きずな」での布絵本・さわる絵本の展示、「弱視者・中途視覚障害者のための講習会」への講師派遣 ▽感染症拡大防止対策を講じたうえでのサービスの実施	▽国や都の動向に注視しながら、適切な感染症拡大防止対策をしながらハンディキャップサービスの提供を行う。 ▽必要な方にサービスが行き届くように、引き続きPR活動を行うとともに、利用者ニーズに沿った資料を提供するために選書を行う。 ▽音訳・対面朗読ボランティアの養成に注力する。 ▽施設の大規模修繕等による中央図書館休館期間において、近隣の公共施設で対面朗読サービスを継続する。

R 4年度実績 (Do)	R 4年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽対面朗読 204回 ▽録音図書作成 13タイトル ▽宅配 19人、268回・郵送 15人、9館、貸出資料数 1,001点 ▽音訳・対面朗読ボランティア養成講座 延べ参加者 73人 ▽特集展示の実施	▽中央図書館休館期間中も、令和5年1月末まで対面朗読を教育センターで実施した。 ▽「きずな」での絵本展示を3年ぶりに実施した。	



A 重点化・拡大 B 現状のまま継続 C 見直し D 休止・廃止 R 4年度評価に基づく見直し (Action)

R 5年度の具体的な取組 (Plan)	R 5年度の方向性 (Plan)
▽対面朗読の実施 ▽録音図書・布絵本の作成 ▽宅配貸出・郵送貸出の実施 ▽音訳・対面朗読ボランティアの養成 ▽「きずな」での布絵本・さわる絵本の展示、「弱視者・中途視覚障害者のための講習会」への講師派遣 ▽感染症拡大防止対策を講じたうえでのサービスの実施	▽必要な方にサービスが行き届くように、引き続きPR活動を行うとともに、利用者ニーズに沿った資料を提供するために選書を行う。 ▽音訳・対面朗読ボランティアの養成に注力する。

R 6年度における事業の位置付け	事業の位置付けの詳細と今後の方向性	
A 重点化・拡大して継続 B 現状のまま継続 1 大幅な見直しは必要ない (右欄に理由を具体的に記載) 2 見直しには法令等の改正が必須 (右欄に法令等の名称を記載) 3 現状では見直しが不可能 (右欄に理由を具体的に記載)	B	図書館に来館したり、通常の図書館資料では利用が困難な方に読書を楽しんでいただくため、引き続き、点字や大活字、デージー図書などの録音図書等の図書館資料の選定・購入・提供、宅配サービスなどを行う。また、サービスを実施するために、ボランティアの養成に引き続き注力する。
C 見直して継続 1 見直し・縮小 2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等 1 休止 2 廃止 3 完了		

6 構成事業一覧

(単位:円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	R 4年度		R 5年度
							当初予算額	決算額	当初予算額
1	01	50	30	15	1564000	ハンディキャップサービス事業費	1,234,000	1,070,052	1,158,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,234,000	1,070,052	1,158,000